

選 定

渋川市がひとつになった実感が持てるよう、市のシンボルとなる花・木・鳥と、市のイメージを広くPRするための市のキャッチフレーズを制定しました。

これらの選定にあたって、渋川市に在住の小学生以上の人と「ふるさと通信しぶかわ」の読者を対象に募集をしたところ784人から応募がありました。

応募数は、市の花74種、市の木61種、市の鳥52種で、市のキャッチフレーズは629作品でした。

選考は市民委員の皆さんによる選考委員会において協議を行い、

市の花は「あじさい」

市の木は「もみじ」

市の鳥は「ほととぎす」

市のキャッチフレーズは「日本のまんなか 水と緑といで湯の街 渋川市」を選定しました。



伊香保温泉
石段街



渋川へそまつり

発行 渋川市 企画部企画課
〒377-8501 渋川市石原80番地
TEL0279-22-2111 (代表)
0279-22-2396 (直通)
FAX0279-24-6541
URL <http://www.city.shibukawa.gunma.jp/>

渋川市

シンボル キャッチフレーズ



日本のまんなか 水と緑といで湯の街 渋川市

市のキャッチフレーズ

日本のまんなか 水と緑といで湯の街 渋川市

本市が「日本のまんなか」に位置することを市内外に印象づけ、利根川、吾妻川の豊かな「水」や、赤城山、榛名山などの「緑」あふれる雄大な自然、伊香保温泉をはじめ各地区に点在する温泉など豊富な観光資源をアピールし、本市の魅力をわかりやすく伝えるための市のキャッチフレーズとしました。

市の花 あじさい



あじさいは、丈夫で育てやすく、多くの家庭の庭先に見られ、誰にも親しまれています。また、小野池あじさい公園や渋川市総合公園など多くの公共施設に植栽され、その育成に市民のボランティア活動もかかわっています。

このような背景と花びらが仲良く集まって咲く姿が、合併して一つになった市のイメージに合っています。



あじさいは、6～7月に鮮やかな色の花を咲かせます。しかし、一見、花のように見えるのは、実はガクで、本当の花ではありません。あじさいの花自体は、小さいため目立ちません。

あじさいは、乾燥を嫌うので、半日陰で土が常に湿っている場所に植えるのが良いでしょう。

市の木 もみじ



もみじは、子どもからお年寄りまで誰もが知っていて親しまれている木です。初夏の新緑と秋の紅葉との色の対比が素晴らしい、葉の色の移り変わりに四季を感じさせ、本市が豊かな自然に恵まれていることを実感させてくれます。

このような背景と人の手の形に似たもみじの葉が、手と手を取り合って新市が一体になったイメージを感じさせます。



もみじには、「揉み出す」が語源であるという説もあります。これは、紅花染めて、紅花の花弁から紅の色を揉み出すところ由来するものです。

もみじは、秋にきれいな紅葉を鑑賞できるように、日当たり、風通し及び水はけの良い場所に植えるのが良いでしょう。

市の鳥 ほととぎす



ほととぎすは、花鳥風月の鳥を代表すると言われていています。夏の渡り鳥で市内に生息し、その美しく響く鳴き声が、自然の豊かさと雄大さを表します。

また、明治の文豪徳富蘆花が、小説「不如帰（ほととぎす）」の舞台として伊香保を登場させ、伊香保温泉の名が全国に広がるきっかけとなりました。



ほととぎすは、5月から6月頃に渡来し、高原を好んで生息しながら鳴き声を披露してくれます。

ほととぎすのオスは、「キョッキョツ、キョキョキョ」あるいは「テッペンカケタカ」と鳴き、メスは「ビ、ビ、ビ、ビ、ピー」と鳴きます。